

46) 新卒看護師の離職に関する職務上の悩みと仕事の継続理由

－2県の新卒看護師を対象とした質問紙調査－

山田美幸、前田ひとみ、津田紀子

(宮崎大学医学部看護学科)

久保江里 (宮崎大学大学院医学系研究科)

影山隆之 (大分県立看護科学大学)

【目的】

医療現場では、さまざまなストレスによって無力感に陥り、離職する新卒看護師が増加していることが問題となっている。そこで本研究の目的は、離職に関する新卒看護師の職務上の悩みや仕事の継続理由を明らかにすることである。

【研究方法】

平成17年6月に開催された2県の看護協会主催の新入会員研修会の参加者732名を対象に研究の趣旨と1年間の調査を計画していることの説明書と、自記式質問票、同意書を配布し、郵送にて回収した(1回目調査)。8月に調査協力の同意が得られた93名を対象に、就職してから困ったことや仕事の継続理由について郵送調査を行った(2回目調査)。分析は、質問票で得られた記述から目的に添った意味内容を抽出し、研究者間で同一カテゴリーが抽出されるまで検討を繰り返し、カテゴリー化した。倫理的配慮は、調査の協力は自由意思であること、研究協力に伴う権利と不利益、調査票の管理について文書で説明し、紙面による同意を得、調査票は無記名とした。

【結果】

1回目調査の回収数(率)は、122名(16.7%)で、2回目の回収数(率)は、30名(32.6%)であった。6月の時点で仕事上の悩みを持っていた新卒看護師は、103名(84.4%)であった。その内容はA県では「力量不足」「仕事の過負荷」「安全」であり、B県では「力量不足」「仕事の過負荷」「人間関係に関する悩み」であった。8月の調査では、回答した30名全員が就職して困ったことがあると回答していた。その内容として採血や注射について困ったことは、講義等で学んでいなかった高齢者の対応やトラブルへの対応であった。他に疾患や医学用語、重症患者への対応について困惑していた。仕事をやめたいと思った人は26名(86.7%)であった。その理由は、A県では「理想と現実のギャップ」「力量不足」、B県では「力量不足」「人間関係」が抽出された。仕事を継続している理由は「患者との関わりが楽しい」からであった。一方では、「やめる勇気がない」「期待を裏切れない」という理由も見られた。

【考察】

多くの新卒看護師は、学生時の一人の患者を看護する状況から複数の患者を看護する状況への変化を体験し、急に多くの知識や技術を要求され、自分の力不足を感じやすい状態である。これは、新卒看護師が無力感やゆとりのなさを感じる一因となり、離職を考える理由にまで発展していることが推測される。また、新卒看護師は慣れない環境の中で、看護の中から得られた楽しさによって仕事を継続する反面、断ち切れない自己の問題を持ち、周囲への気遣いをしながら仕事を継続していることが考えられる。このことから、新卒看護師が本来持っている自分自身の力を取り戻していけるような支援が必要であるという示唆を得た。